

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7574605号
(P7574605)

(45)発行日 令和6年10月29日(2024.10.29)

(24)登録日 令和6年10月21日(2024.10.21)

(51)国際特許分類	F I			
A 4 7 B 7/00 (2006.01)	A 4 7 B 7/00	Z		
A 4 7 B 13/00 (2006.01)	A 4 7 B 13/00	B		
	A 4 7 B 13/00	Z		

請求項の数 9 (全17頁)

(21)出願番号	特願2020-173642(P2020-173642)	(73)特許権者	000001351
(22)出願日	令和2年10月15日(2020.10.15)		コクヨ株式会社
(65)公開番号	特開2022-65235(P2022-65235A)		大阪府大阪市東成区大今里南 6 丁目 1 番
(43)公開日	令和4年4月27日(2022.4.27)		1 号
審査請求日	令和5年9月14日(2023.9.14)	(74)代理人	100085338
			弁理士 赤澤 一博
		(72)発明者	森本 祐介
			大阪府大阪市東成区大今里南 6 丁目 1 番
			1 号 コクヨ株式会社内
		(72)発明者	遠藤 駿
			大阪府大阪市東成区大今里南 6 丁目 1 番
			1 号 コクヨ株式会社内
		審査官	神尾 寧

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 天板付家具

(57)【特許請求の範囲】

【請求項 1】

天板と、この天板の左右方向及び前後方向中央部に配設され前記天板を支持し得る支持体とを備えてなる天板付家具であって、

前記支持体が、複数の脚フレーム体と、隣り合う前記脚フレーム体同士を繋ぐ複数の連結パネル体とを備えたものであり、

前記脚フレーム体が、上下方向に延びてなる脚支柱と、この脚支柱の上端部から前記天板の外方に向かって延設され上面が前記天板の下面に接続し得る天板受フレームと備えたものであり、

前記連結パネル体の上端部が前記天板の下面に取り付けられたものである天板付家具。

【請求項 2】

前記複数の脚フレーム体が、左前部に位置する左前脚フレーム体、右前部に位置する右前脚フレーム体、左後部に位置する左後脚フレーム体、及び、右後部に位置する右後脚フレーム体であって、

前記連結パネル体が、前記左前脚フレーム体と前記右前脚フレーム体の間、前記左前脚フレーム体と前記左後脚フレーム体の間、前記右前脚フレーム体と前記右後脚フレーム体の間、及び、前記左後脚フレーム体と前記右後脚フレーム体の間の内、何れか三つの間に配設されたものであるとともに、残りの一つの間には上端部が前記天板の下面に取り付けられた上の横架材及び当該上の横架材よりも下に位置する下の横架材が配設されたものである請求項 1 記載の天板付家具。

【請求項 3】

前記残りの一つの間を閉塞し得る化粧パネル体を備えたものであり、この化粧パネル体が、前記上下の横架材に対して着脱自在に取り付けられたものである請求項 2 記載の天板付家具。

【請求項 4】

前記脚支柱が、矩形パイプ材により構成された脚支柱本体を有しており、この脚支柱本体の内側面に前記連結パネル体の内面側に突設された連結板部が止着されている請求項 1、2 又は 3 記載の天板付家具。

【請求項 5】

前記連結パネル体における側端部に、前記脚支柱本体の外角部をカバーし得るカバー部が形成されている請求項 4 記載の天板付家具。

10

【請求項 6】

前記天板の中央部に上下方向に貫通した配線連通孔が設けられている請求項 1、2、3、4 又は 5 記載の天板付家具。

【請求項 7】

前記天板の中央部に、観葉植物を保持した植栽を載置し得る植栽載置部が設けられている請求項 1、2、3、4、5 又は 6 記載の天板付家具。

【請求項 8】

前記天板の中央部に、上下方向及び水平方向に延びてなる複数のフレーム材により構成され物品を掛け止めし得るやぐら構造体が設けられている請求項 1、2、3、4、5、6 又は 7 記載の天板付家具。

20

【請求項 9】

前記天板受フレームが、前記天板の対角線に沿うように延設されたものである請求項 1、2、3、4、5、6、7 又は 8 記載の天板付家具。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、天板付家具に関する。

【背景技術】

【0002】

30

従来から、天板を、上下方向に延びてなる複数本の脚部材を有した支持体によって支持するようにした天板付家具が知られている。この種の天板付家具には、天板における全ての周縁部が使用者によって執務可能な使用端縁に設定されているものも多く存在する（例えば、特許文献 1 を参照。）。

【0003】

支持体には、天板から伝達される鉛直方向の荷重だけでなく水平方向の荷重に対しても耐え得る強度が求められる。従来におけるこの種の支持体は、上下方向に延びた脚部材を主体にしたものが多く、天板の下面に複数本の補強ビーム材やブラケット部材を設ける等の比較的大掛かりな補強対策を採らざるを得ないものとなっていた。

【0004】

40

換言すれば、従来の天板付家具は、天板を支持体により安定支持させるための構造が複雑化し易いものとなっていた。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【文献】特開 2018-68632 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

本発明は、以上のような事情に着目してなされたもので、少なくとも、天板を安定的に

50

支持し得る好適な構成を備えた天板付家具を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0007】

すなわち、本発明は次の構成をなしている。

【0008】

請求項1に記載の発明は、天板と、この天板の左右方向及び前後方向中央部に配設され前記天板を支持し得る支持体とを備えてなる天板付家具であって、前記支持体が、複数の脚フレーム体と、隣り合う前記脚フレーム体同士を繋ぐ複数の連結パネル体とを備えたものであり、前記脚フレーム体が、上下方向に延びてなる脚支柱と、この脚支柱の上端部から前記天板の外方に向かって延設され上面が前記天板の下面に接続し得る天板受フレームと備えたものであり、前記連結パネル体の上端部が前記天板の下面に取り付けられたものである天板付家具である。

10

【0009】

請求項2に記載の発明は、前記複数の脚フレーム体が、左前部に位置する左前脚フレーム体、右前部に位置する右前脚フレーム体、左後部に位置する左後脚フレーム体、及び、右後部に位置する右後脚フレーム体であって、前記連結パネル体が、前記左前脚フレーム体と前記右前脚フレーム体の間、前記左前脚フレーム体と前記左後脚フレーム体の間、前記右前脚フレーム体と前記右後脚フレーム体の間、及び、前記左後脚フレーム体と前記右後脚フレーム体の間の内、何れか三つの間に配設されたものであるとともに、残りの一つの間には上端部が前記天板の下面に取り付けられた上の横架材及び当該上の横架材よりも下に位置する下の横架材が配設されたものである請求項1記載の天板付家具である。

20

【0010】

請求項3に記載の発明は、前記残りの一つの間を閉塞し得る化粧パネル体を備えたものであり、この化粧パネル体が、前記上下の横架材に対して着脱自在に取り付けられたものである請求項2記載の天板付家具である。

【0011】

請求項4に記載の発明は、前記脚支柱が、矩形パイプ材により構成された脚支柱本体を有しており、この脚支柱本体の内側面に前記連結パネル体の内面側に突設された連結板部が止着されている請求項1、2又は3記載の天板付家具である。

【0012】

請求項5に記載の発明は、前記連結パネル体における側端部に、前記脚支柱本体の外角部をカバーし得るカバー部が形成されている請求項4記載の天板付家具である。

30

【0013】

請求項6に記載の発明は、前記天板の中央部に上下方向に貫通した配線連通孔が設けられている請求項1、2、3、4又は5記載の天板付家具である。

【0014】

請求項7に記載の発明は、前記天板の中央部に、観葉植物を保持した植栽を載置し得る植栽載置部が設けられている請求項1、2、3、4、5又は6記載の天板付家具である。

【0015】

請求項8に記載の発明は、前記天板の中央部に、上下方向及び水平方向に延びてなる複数のフレーム材により構成され物品を掛け止めし得るやぐら構造体が設けられている請求項1、2、3、4、5、6又は7記載の天板付家具である。

40

【0016】

請求項9に記載の発明は、前記天板受フレームが、前記天板の対角線に沿うように延設されたものである請求項1、2、3、4、5、6、7又は8記載の天板付家具である。

【発明の効果】

【0017】

以上説明したように本発明によれば、少なくとも、天板を安定的に支持し得る好適な構成を備えた天板付家具を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

50

【 0 0 1 8 】

【図 1】本発明の一実施形態を示す斜視図。

【図 2】同実施形態における斜視図。

【図 3】同実施形態における正面図。

【図 4】同実施形態における背面図。

【図 5】同実施形態における右側面図。

【図 6】同実施形態における平面図。

【図 7】同実施形態における底面図。

【図 8】同実施形態における分解斜視図。

【図 9】同実施形態における分解斜視図。

【図 10】同実施形態における斜視図。

【図 11】同実施形態における分解斜視図。

【図 12】図 4 における X-X 線断面図。

【図 13】同実施形態における分解斜視図。

【図 14】同実施形態における分解斜視図。

【図 15】同実施形態における分解斜視図。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 1 9 】

以下、本発明の一実施形態を、図 1～15 を参照して説明する。

【 0 0 2 0 】

天板付家具は、外周縁が略矩形状をなした天板 A と、天板 A の左右方向及び前後方向中央部に配設され天板 A を支持し得る支持体 B と、天板 A の上における前後方向及び左右方向中央部に設けられ観葉植物 p 1 を保持した植栽 P を載置し得る植栽載置部 C と、天板 A の上における前後方向及び左右方向の中央部に立設され上下方向及び水平方向に延びてなる複数のフレーム材により構成され種々の物品 E（例えば、図 3 に示された物品 E は照明装置である。）を掛け止めし得るやぐら構造体 D を備えたものである。

【 0 0 2 1 】

以下、天板付家具の各構成について詳述する。

【 0 0 2 2 】

<<天板 A>>

天板 A は、全体として略正形状をなしたものである。天板 A の中央部には隅角部が丸く形成された略四角形状をなす上下方向に貫通した配線連通孔 a h が設けられている。天板付家具は、天板 A に形成された配線連通孔 a h を通じて床面 F 側から給電用又は情報用の配線類を天板 A の上側に導くことができるようになっている。

【 0 0 2 3 】

天板 A は、周端縁の全てが使用者によって執務可能な使用端縁に設定されたものとなっている。つまり、天板 A における全周縁部の下には、使用者の下肢や椅子の座部等が進入可能な下肢空間が形成されている。

【 0 0 2 4 】

この実施形態の天板 A は、一方すなわち前の天板形成部材 a f 及び他方すなわち後の天板形成部材 a r を複数の連結プレート a p を用いて連結させたものとなっている。

【 0 0 2 5 】

<<支持体 B>>

支持体 B は、四つの脚フレーム体、すなわち、天板 A の下面における左前部、右前部、左後部、右後部に位置する左前脚フレーム体 1、右前脚フレーム体 2、左後脚フレーム体 3、右後脚フレーム体 4 を備えている。

【 0 0 2 6 】

支持体 B は、隣り合う脚フレーム体 1、2、3、4 の間、すなわち、左前脚フレーム体 1 と右前脚フレーム体 2 との間、左前脚フレーム体 1 と左後脚フレーム体 3 との間、及び、右前脚フレーム体 2 と右後脚フレーム体 4 との間を繋ぐ三枚の連結パネル体である第一

10

20

30

40

50

、第二、第三の連結パネル体 J 1、J 2、J 3 を備えている。

【0027】

支持体 B は、左後脚フレーム体 3 の上部と右後脚フレーム体 4 の上部との間に架設され上端部たる上鰐部 8 が天板 A の下面に取り付けられた上の横架材 I と、左後脚フレーム体 3 の下部と右後脚フレーム体 4 の下部との間に架設され上の横架材 I よりも下に位置する下の横架材 R と、左後脚フレーム体 3 と右後脚フレーム体 4 との間を閉塞し得るものであり上下の横架材 I、R に対して着脱自在に取り付けられた化粧パネル体 K を備えたものである。

【0028】

＜脚フレーム体 1、2、3、4＞

四つの脚フレーム体、すなわち、左前脚フレーム体 1、右前脚フレーム体 2、左後脚フレーム体 3、右後脚フレーム体 4 は、それぞれ、上下方向に延びてなる脚支柱 M と、脚支柱 M の上端部から天板 A の対角線に沿うように外方に向かって略水平に延設され上面が天板 A の下面に接続し得る天板受フレーム N と備えている。

【0029】

各脚フレーム 1、2、3、4 は、略同一形状をなしている。各脚フレーム 1、2、3、4 は、脚支柱 M と天板受フレーム N とによって略 L 字状の形態をなしたものである。

【0030】

脚支柱 M は、矩形パイプ材により構成された上下方向に延びてなる脚支柱本体 m 1 と、脚支柱本体 m 1 の下端部に設けられたアジャスタ m 2 とを備えたものである。

【0031】

脚支柱本体 m 1 には、上部、中部、下部の三箇所にナット部 n 1 が設けられている。脚支柱 M のナット部 n 1 には、各連結パネル体 J 1、J 2、J 3 の連結板部 7 に設けられたねじ挿通孔 h 1 に挿通されたねじ v 1 が螺着されるようになっている。

【0032】

天板受フレーム N は、脚支柱 M に対して略直交する方向すなわち水平方向に延びてなるものである。天板受フレーム N は、略水平の上面を有した矩形パイプ材により構成されたものである。天板受フレーム N の基端部は、脚支柱 M の上端部に溶接により剛結されている。

【0033】

天板受フレーム N は、天板 A における対角線に略合致する裏面に取り付けられている。この実施形態では、天板受フレーム N は、平面視又は底面視において隣接する連結パネル体 J 1、J 2、J 3 の長手方向に対して 45° 傾いた姿勢をなしている。

【0034】

天板受フレーム N には、上下方向に貫通するねじ挿通孔 h 2 が設けられており、ねじ挿通孔 h 2 に挿通されたねじ v 2 を天板 A の下面に設けられた図示しないナット部に螺着することにより、各脚フレーム 1、2、3、4 が天板 A に対して取り付けられるようになっている。

【0035】

＜第一、第二、第三の連結パネル体 J 1、J 2、J 3＞

三枚の連結パネル体、すなわち、第一、第二、第三の連結パネル体 J 1、J 2、J 3 は、全体として略矩形板状をなした板金製のものである。各連結パネル体 J 1、J 2、J 3 は、略同一形状をなしている。各連結パネル体 J 1、J 2、J 3 は、水平方向の両側部が隣り合う一対の脚支柱本体 m 1 における対向する各内側面に取り付けられるとともに上端部たる上鰐部 8 が天板 A の下面に取り付けられるものである。

【0036】

各連結パネル体 J 1、J 2、J 3 は、略矩形板状をなし上部の両角部に天板受フレーム N との干渉を避けるための切欠部 5 1 が形成されたパネル本体 5 と、パネル本体 5 の両側端部に一体に設けられ脚支柱本体 m 1 の外角部 m 1 1 をカバーし得るカバー部 6 と、パネル本体 5 の内面側に内方に向かって突設され脚支柱本体 m 1 の内側面に止着される連結板

10

20

30

40

50

部 7 と、パネル本体 5 の上端縁から内方に向かって一体に突設され天板 A の下面に取り付けられる上端部たる上鰐部 8 とを備えたものである。

【0037】

パネル本体 5 は、起立姿勢をなす板状のものであり、隣り合う脚支柱本体 m 1 間を閉塞し得る主要部を構成するものである。

【0038】

カバー部 6 は、隣接する他の連結パネル体 J 1、J 2、J 3 のカバー部 6、又は、化粧パネル体 K のカバー部 k 2 と協働して脚支柱本体 m 1 の外角部 m 1 1 を見栄えよく覆い得るものである。

【0039】

カバー部 6 は、パネル本体 5 の両側端から当該パネル本体 5 に対して約 45° 屈曲して延びる第一の延出部 6 1 と、第一の延出部 6 1 における延出端から当該第一の延出部 6 1 に対して対して略直交する内方に延びてなる第二の延出部 6 2 とを備えている。

【0040】

第二の延出部 6 2 は、隣接する他の連結パネル体 J 1、J 2、J 3 における第二の延出部 6 2 又は化粧パネル体 K における第二の延出部 6 2 と平行をなすように近接するようになり、その間に目地である隙間 s k が形成されるようになっている。

【0041】

連結板部 7 は、パネル本体 5 に対して直交する方向に突設された板状のものである。連結板部 7 は、L 字状の鋼材をパネル本体 5 に溶接することにより設けられている。

【0042】

連結板部 7 には、上部、中部、下部の三箇所にねじ挿通孔 h 1 が設けられている。連結板部 7 のねじ挿通孔 h 1 に挿通されたねじ v 1 を脚支柱本体 m 1 に設けられたナット部 n 1 に螺着することにより、各連結パネル体 J 1、J 2、J 3 が各脚フレーム体 1、2、3、4 の脚支柱本体 m 1 に対して取り付けられるようになっている。

【0043】

上鰐部 8 はパネル本体 5 の上端縁から内方に向かって突設されたものである。上鰐部 8 には、上下方向に貫通する複数のねじ挿通孔 h 3 が設けられている。上鰐部 8 のねじ挿通孔 h 3 に挿通されたねじ v 3 を天板 A の下面に設けた図示しないナット部に螺着することにより、各連結パネル体 J 1、J 2、J 3 が天板 A に対して取り付けられるようになっている。

【0044】

以上に述べた矩形形状をなす第一、第二、第三の連結パネル体 J 1、J 2、J 3 は、隣り合う脚フレーム体 1、2、3、4 の間を塞ぐ役割を果たすだけでなく、脚フレーム体 1、2、3、4 と協働して天板受けとしての役割も果たすものとなっている。

【0045】

<上の横架材 I>

上の横架材 I は、左後脚フレーム体 3 における脚支柱本体 m 1 の上部と右後脚フレーム体 4 における脚支柱本体 m 1 の上部との間を繋ぐものであるとともに上端部たる上鰐部 i 3 が天板 A の下面に止着されたものである。

【0046】

上の横架材 I は、起立姿勢の横長矩形板状をなす上横架材本体 i 1 と、上横架材本体 i 1 における左右の側端部からそれぞれ当該上横架材本体 i 1 に対して略直交する内方に突設され左後脚フレーム体 3 における脚支柱本体 m 1 の上部、及び、右後脚フレーム体 4 における脚支柱本体 m 1 の上部に取り付けられる左右の取付板 i 2 と、上横架材本体 i 1 の上端から外方に向かって一体に突設され天板 A の下面に取り付けられる上端部たる上鰐部 i 3 とを備えたものである。

【0047】

上横架材本体 i 1 は、その上部の外面側における両側端部に、脱着機構たるキャッチを構成するキャッチ構成突起 t 1 が設けられている。キャッチ構成突起 t 1 は、化粧パネル

10

20

30

40

50

体 K の内面側に設けられたキャッチ構成凹部 t 2 に対して着脱可能に構成されている。

【 0 0 4 8 】

左右の取付板 i 2 には左右方向に貫通したねじ挿通孔 h 4 が設けられている。そして、左右の取付板 i 2 におけるねじ挿通孔 h 4 に挿通されたねじ v 4 を脚支柱本体 m 1 に設けられたナット部 n 4 に螺着することにより、上の横架材 I が左後脚フレーム体 3 における脚支柱本体 m 1 の上部と右後脚フレーム体 4 における脚支柱本体 m 1 の上部に対して取り付けられるようになっている。

【 0 0 4 9 】

上鰐部 i 3 には、上下方向に貫通する複数のねじ挿通孔 h 5 が設けられている。上鰐部 i 3 のねじ挿通孔 h 5 に挿通されたねじ v 5 を天板 A の下面に設けた図示しないナット部に螺着することにより、上の横架材 I が天板 A に対して取り付けられるようになっている。

【 0 0 5 0 】

以上に述べた上の横架材 I は、隣り合う左後及び右後脚フレーム体 3、4 の間を塞ぐ役割を果たすだけでなく、これら各脚フレーム体 3、4 と協働して天板受けとしての役割も果たすものとなっている。

【 0 0 5 1 】

< 下の横架材 R >

下の横架材 R は、左後脚フレーム体 3 における脚支柱本体 m 1 の下部と右後脚フレーム体 4 における脚支柱本体 m 1 の下部との間を繋ぐものである。

【 0 0 5 2 】

下の横架材 R は、水平姿勢をなす横長矩形板状の下横架材本体 r 1 と、下横架材本体 r 1 における左右の側端部から上方に向かって延設され左後脚フレーム体 3 及び右後脚フレーム体 4 における脚支柱本体 m 1 の下部に取り付けられる左右の取付板 r 2 と、下横架材本体 r 1 の内側端から立設された補強鰐 r 3 と、下横架材本体 r 1 における外側端側の左右両端部に突設され化粧パネル体 K の下端部に形成された係合孔 k 4 1 に挿入される左右一対の係合突起 r 4 とを備えたものである。

【 0 0 5 3 】

左右の取付板 r 2 には左右方向に貫通したねじ挿通孔 h 6 が設けられている。そして、左右の取付板 r 2 におけるねじ挿通孔 h 6 に挿通されたねじ v 6 を脚支柱本体 m 1 に設けられたナット部 n 6 に螺着することにより、下の横架材 R が左後脚フレーム体 3 における脚支柱本体 m 1 の下部と右後脚フレーム体 4 における脚支柱本体 m 1 の下部に対して取り付けられるようになっている。

【 0 0 5 4 】

< 化粧パネル体 K >

化粧パネル体 K は、左後脚フレーム体 3 と右後脚フレーム体 4 との間を閉塞し得るものであり上下の横架材 I、R に対して着脱自在に取り付けられたものである。化粧パネル体 K は、全体として略矩形板状をなした板金製のものである。

【 0 0 5 5 】

化粧パネル体 K は、略矩形板状をなし上部の両角部に天板受フレーム N との干渉を避けるための切欠部 k 1 1 が形成された化粧パネル本体 k 1 と、化粧パネル本体 k 1 の両側端部に一体に設けられ脚支柱本体 m 1 の外角部 m 1 1 をカバーし得るカバー部 k 2 と、化粧パネル本体 k 1 の上端部から内方に向かって一体に突設され左右の両端部に脱着機構たるキャッチを構成するキャッチ構成凹部 t 2 を設けた上鰐部 k 3 と、化粧パネル本体 k 1 の下端部から内方に向かって一体に突設され左右両端部に上下方向に貫通する係合孔 k 4 1 が設けられた下鰐部 k 4 とを備えたものである。

【 0 0 5 6 】

化粧パネル本体 k 1 は、起立姿勢をなす板状のものであり、隣り合う左後脚フレーム体 3 の脚支柱本体 m 1 と右後脚フレーム体 4 の脚支柱本体 m 1 との間を閉塞し得る主要部を構成するものである。切欠部 k 1 1 は、天板受フレーム N との干渉を避けるだけでなく、化粧パネル体 K を着脱する際の指掛かりとしても機能し得るものとなっている。

【0057】

カバー部k2は、隣接する第二、第三の連結パネル体J2、J3のカバー部6と協働して左後脚フレーム体3及び右後脚フレーム体4の脚支柱本体m1の外角部m11を見栄えよく覆い得るものである。

【0058】

カバー部k2は、化粧パネル本体k1の外側端部から当該化粧パネル本体k1に対して約45°屈曲して延びる第一の延出部k21と、第一の延出部k21における延出端から当該第一の延出部k21に対して略直交する内方に延びてなる第二の延出部k22とを備えている。

【0059】

第二の延出部k22は、隣接する第二、第三の連結パネル体J2、J3におけるカバー部6の第二の延出部62と平行をなすように近接するようになっており、その間に目地である隙間skが形成されるようになっている。

【0060】

<<植栽載置部C>>

植栽載置部Cは、天板Aに形成された配線連通孔ahの周縁部を囲うように天板Aに対して立設された矩形枠状をなす枠体c1と、枠体c1の内側に配設された植栽載置板c2とを備えたものである。植栽載置板c2の上には、植栽Pが載せ置かれるようになっている。

【0061】

枠体c1は、L字状をなす一对の枠構成部材c1a、c1bにより構成されている。枠体c1は、天板Aに対して立設された前後及び左右の周壁部c11と、各周壁部c11の下端縁から内方に延設された取付錨c12とを備えたものである。

【0062】

各周壁部c11の横幅方向中央部には、プラグ差込孔g1を有した給電装置Gが取り付けられている。給電装置Gの配線は、天板Aの配線連通孔ahを通じて床面F側に至るようになっている。

【0063】

枠体c1の取付錨c12には、上下方向に貫通したねじ挿通孔h7が設けられており、やぐら構造体Dにおけるねじ挿通孔h7aを有した取付板dpとともにねじv7により共締めされて天板Aに対して取り付けられている。

【0064】

植栽載置板c2は、水平板状をなし中央部に上下方向に貫通する貫通孔caが形成された植栽載置板本体c21と、植栽載置板本体c21の周縁部から下方に延設された垂下壁c22とを備えている。植栽載置板本体c21の四つの角部は切り欠かれており、やぐら構造体Dの下端部が上下方向に連通し得るようになっている。垂下壁c22の下端縁は、枠体c1における取付錨c12の上に係わり合うようになっている。

【0065】

植栽載置板c2に支持される植栽Pは、ブロック状の保持部材p2に観葉植物p1を保持させたものである。なお、観葉植物p1は、生きているものだけでなく模造されたもの（人工のもの）が含まれる。この実施形態の保持部材p2は、例えば、スポンジや発泡スチロール製のものであり、人工の観葉植物p1の下端部を挿し入れることができるようにしたブロック状のものである。

【0066】

<<やぐら構造体D>>

やぐら構造体Dは、上下方向に延びてなり下端部に天板Aに取り付けるための取付板dpが一体に設けられた四本の起立フレーム、すなわち、左前起立フレームd1、右前起立フレームd2、左後起立フレームd3、及び、右後起立フレームd4と、左前起立フレームd1の上端部と左後起立フレームd3の上端部との間を繋ぐ左の水平連結フレームd5と、右前起立フレームd2の上端部と右後起立フレームd4の上端部との間を繋ぐ右の水

10

20

30

40

50

平連結フレーム d 6 と、左前起立フレーム d 1 の上端部と右前起立フレーム d 2 の上端部との間を繋ぐ前の水平連結フレーム d 7 と、左後起立フレーム d 3 の上端部と右後起立フレーム d 4 の上端部との間を繋ぐ後の水平連結フレーム d 8 と、右前起立フレーム d 2 の上端部と左後起立フレーム d 3 の上端部間を繋ぐ斜め水平連結フレーム d 9 とを備えたものである。

【0067】

各起立フレーム d 1、d 2、d 3、d 4 の下端部に設けられた取付板 d p には上下方向に貫通したねじ挿通孔 h 7 a が設けられている。

【0068】

取付板 d p のねじ挿通孔 h 7 a に挿通されたねじ v 7 は、更に、植栽載置部 C の枠体 c 1 に設けられたねじ挿通孔 h 7 を通過した後に、天板 A に配されたナット部 n 7 に螺着されるようになっている。換言すれば、やぐら構造体 D の取付板 d p は、植栽載置部 C の枠体 c 1 とともに天板 A に対して共締めされている。

【0069】

各起立フレーム d 1、d 2、d 3、d 4 及び水平連結フレーム d 5、d 6、d 7、d 8、d 9 には、配線や飾り物や執務に使用される小物類等の物品 E を掛け止めすることができるようになっている。

【0070】

以上説明したように、本実施形態に係る天板付家具は、外周縁が略矩形状をなした天板 A と、天板 A の左右方向及び前後方向中央部に配設され天板 A を支持し得る支持体 B とを備えてなるものである。

【0071】

そして、支持体 B が、複数の脚フレーム体である左前脚フレーム体 1、右前脚フレーム体 2、左後脚フレーム体 3、右後脚フレーム体 4 と、隣り合う脚フレーム体同士を繋ぐ複数の連結パネル体である第一、第二、第三の連結パネル体 J 1、J 2、J 3 とを備えたものである。

【0072】

各脚フレーム体 1、2、3、4 は、上下方向に延びてなる脚支柱 M と、脚支柱 M の上端部から天板 A の外方に向かって、すなわち、天板 A の対角線に沿うように延設され上面が天板 A の下面に接続し得る天板受フレーム N と備えたものであり、第一、第二、第三の連結パネル体 J 1、J 2、J 3 の上端部たる上鰐部 8 が天板 A の下面に取り付けられたものである。

【0073】

このため、本実施形態に示される天板付家具であれば、天板 A に対する上下方向の荷重だけでなく水平方向の荷重に対しても耐え得る剛性を発揮し易く、天板 A を安定的に支持し得る好適な構成を提供することができるものとなる。

【0074】

すなわち、隣り合う脚フレーム体、すなわち、左前脚フレーム体 1 と右前脚フレーム体 2 を第一の連結パネル体 J 1 により繋ぎ、左前脚フレーム体 1 と右後脚フレーム体 4 を第二の連結パネル体 J 2 により繋ぎ、右前脚フレーム体 2 と右後脚フレーム体 4 を第三の連結パネル体 J 3 により繋ぎ、且つ、第一、第二、第三の連結パネル体 J 1、J 2、J 3 の上端部たる上鰐部 8 が天板 A の下面に取り付けられたものとなっている。

【0075】

このため、各脚フレーム体 1、2、3、4 及び各連結パネル体 J 1、J 2、J 3 が協働して、天板 A から受ける上下方向の荷重のみならず天板 A から受ける水平方向の荷重に対しても好適に耐久し得る構成を好適に実現できるものとなっている。つまり、矩形状をなす各連結パネル J 1、J 2、J 3 は、各脚フレーム体 1、2、3、4 と接続し当該各脚フレーム体 1、2、3、4 を起立姿勢に好適に保持し得るものとなっている。

【0076】

さらに、各脚フレーム体 1、2、3、4 の天板受フレーム N が天板 A の対角線に沿うよ

10

20

30

40

50

うに延設され上面が天板 A の下面に接続し得るものとなっているため、天板 A の下面をバランスよく支持し得るだけでなく使用者の下肢空間を邪魔し難いものとなっている。

【0077】

第一、第二、第三の連結パネル体 J 1、J 2、J 3 が介設されていない左後脚フレーム体 3 と右後脚フレーム体 4 との間には、上端部たる上鰐部 i 3 が天板 A の下面に取り付けられた上の横架材 I、及び、上の横架材 I よりも下に位置する下の横架材 R が配設されたものである。

【0078】

このため、支持体 B は、第一、第二、第三の連結パネル体 J 1、J 2、J 3 だけでなく、上の横架材 I を利用して天板 A の下面を好適に支持することができるとともに、上下の横架材 I、R により、左後脚フレーム体 3 と右後脚フレーム体 4 とを好適に繋ぎ得るものとなっている。

10

【0079】

第一、第二、第三の連結パネル体 J 1、J 2、J 3 が介設されていない左後脚フレーム体 3 と右後脚フレーム体 4 との間を閉塞し得る化粧パネル体 K を備えたものである。

【0080】

そして、化粧パネル体 K が、左後脚フレーム体 3 と右後脚フレーム体 4 との間に介設された上下の横架材 I、R に対して着脱自在に取り付けられたものとなっている。

【0081】

このため、上下の横架材 I、R によって左後脚フレーム体 3 と右後脚フレーム体 4 との間の連結強度は保持しつつ、第一、第二、第三の連結パネル体 J 1、J 2、J 3、及び、化粧パネル体 K の協働により、支持体 B の外観を全体として角柱状に見える好適なものとするができるものとなる。

20

【0082】

しかも、化粧パネル体 K が上下の横架材 I、R に対して着脱自在なものとなっているため、第一、第二、第三の連結パネル体 J 1、J 2、J 3、及び、化粧パネル体 K によって四方が囲まれてなる圍繞空間 s p を、化粧パネル体 K の着脱操作により自由に開放及び閉塞し得るものとなっている。これにより、天板付家具は、組立時の作業性や組み立て後のメンテナンス性が極めて優れたものとなっている。

【0083】

脚支柱 M が、矩形パイプ材により構成された脚支柱本体 m 1 を有しており、脚支柱本体 m 1 の内側面に第一、第二、第三の連結パネル体 J 1、J 2、J 3 の内面側に突設された連結板部 7 が止着されたものである。

30

【0084】

このため、第一、第二、第三の連結パネル体 J 1、J 2、J 3 の外観を損ねることなく当該各連結パネル体 J 1、J 2、J 3 を所定の脚支柱本体 m 1 に対して好適に止着することができるものとなっている。

【0085】

第一、第二、第三の連結パネル体 J 1、J 2、J 3 における各水平方向両側端部に、脚支柱本体 m 1 の外角部 m 1 1 をカバーし得るカバー部 6 が形成されている。

40

【0086】

このため、脚支柱本体 m 1 の外角部 m 1 1 が露出し難い好適な外観をなすようにすることができるようになっている。

【0087】

天板 A の中央部に上下方向に貫通した配線連通孔 a h が設けられている。

【0088】

このため、床面 F 側の配線を、天板 A に形成された配線連通孔 a h を通じて天板 A の上面側に好適に導くことができるようになっている。

【0089】

天板 A の中央部に、観葉植物 p 1 を保持した植栽 P を載置し得る植栽載置部 C が設けら

50

れている。

【0090】

このため、周縁部全周を使用端縁に設定された天板Aにおいて執務に支障を与え難い位置に、植栽Pを設けることができるようになっている。植栽載置部Cに植栽Pを載置することにより、観葉植物p1の存在に基づいた快適な執務空間の形成に資するものとなっている。

【0091】

天板Aの中央部に、上下方向及び水平方向に延びてなる複数のフレーム材d1、d2、d3、d4、d5、d6、d7、d8、d9により構成され物品Eを掛け止めし得るやぐら構造体Dが設けられている。

10

【0092】

このため、照明装置や植栽や配線類等の種々の物品Eを自由に掛け止めさせることによって、執務の利便性を向上させるとともに快適な執務空間の形成に資するものとなっている。

【0093】

なお、本発明は、以上に詳述した実施形態に限られるものではない。

【0094】

天板付家具は、植栽載置部ややぐら構造体を設けていない構成のものであってもよいのはもちろんのことである。

【0095】

天板の形状は矩形状のものには限られるものではなく、例えば、円形、楕円（長円）やそれ以外の異形のものであっても構わない。

20

【0096】

連結パネル体が配設される箇所、及び、化粧パネル体が配設される箇所は、適宜の箇所に設定されるものであり、上述した実施形態に示されたものに限られるものではない。

【0097】

すなわち、三枚の連結パネル体は、左前脚フレーム体と右前脚フレーム体の間、右前脚フレーム体と右後脚フレーム体の間、右後脚フレーム体と左後脚フレーム体の間、及び、左後脚フレーム体と左前脚フレーム体の間の内、何れか三つの間に配設されたものであればよく、その場所はどの場所であっても構わない。

30

【0098】

すなわち、一枚の化粧パネル体は、左前脚フレーム体と右前脚フレーム体の間、右前脚フレーム体と右後脚フレーム体の間、右後脚フレーム体と左後脚フレーム体の間、及び、左後脚フレーム体と左前脚フレーム体の間の内、何れか一つの間に配設されたものであればよく、その場所はどの場所であっても構わない。

【0099】

その他、各部の具体的構成についても上記実施形態に限られるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で種々変形が可能である。

【符号の説明】

【0100】

A…天板

B…支持体

C…植栽載置部

D…やぐら構造体

1…左前脚フレーム体（脚フレーム体）

2…右前脚フレーム体（脚フレーム体）

3…左後脚フレーム体（脚フレーム体）

4…右後脚フレーム体（脚フレーム体）

J1…第一の連結パネル体（連結パネル体）

J2…第二の連結パネル体（連結パネル体）

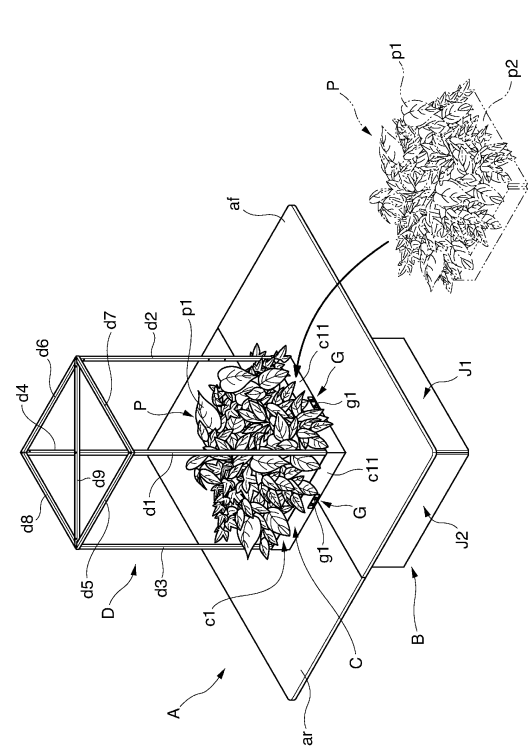
40

50

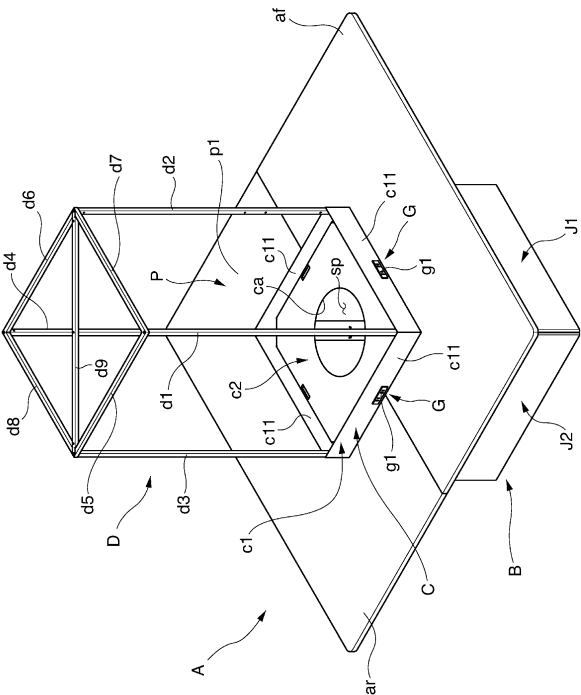
J 3 … 第三の連結パネル体（連結パネル体）
I … 上の横架材
R … 下の横架材
K … 化粧パネル体

【図面】

【図 1】



【図 2】



10

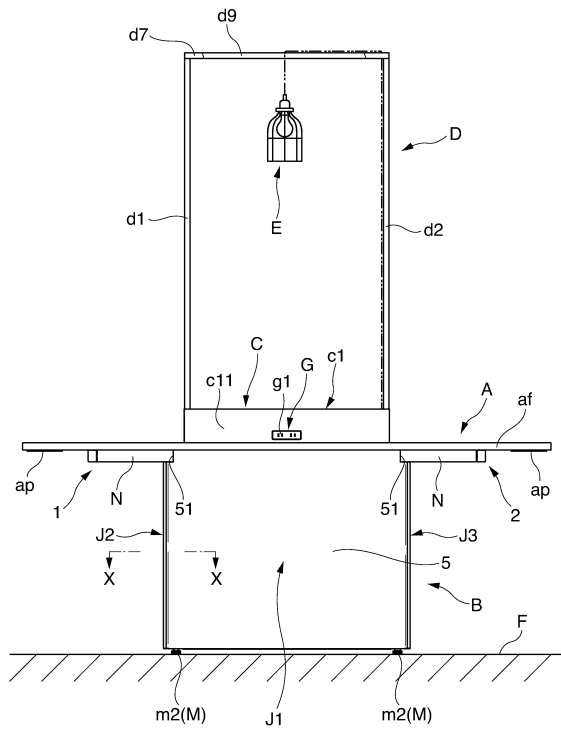
20

30

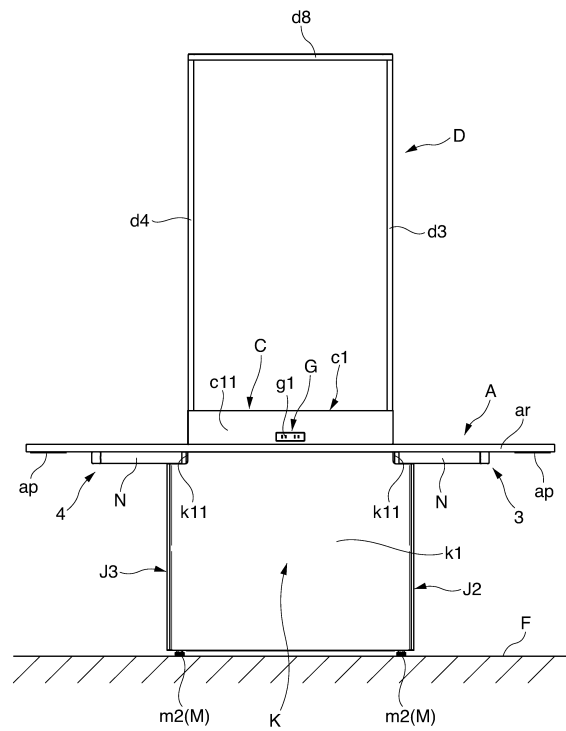
40

50

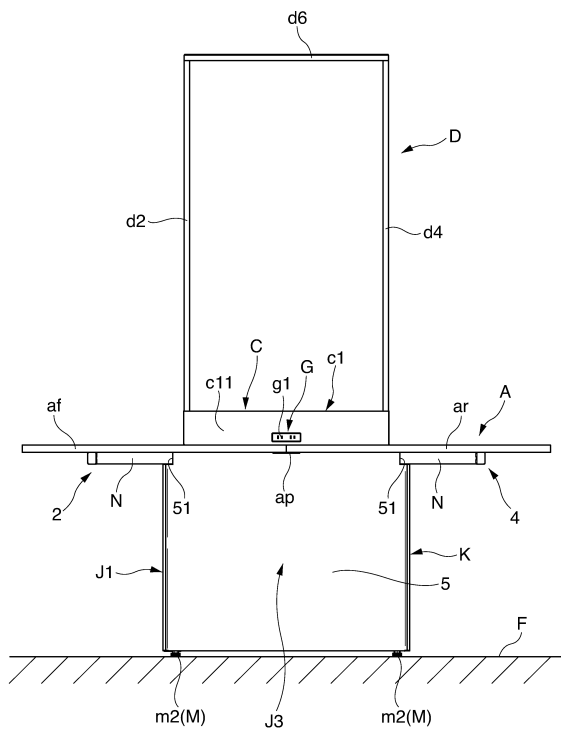
【図 3】



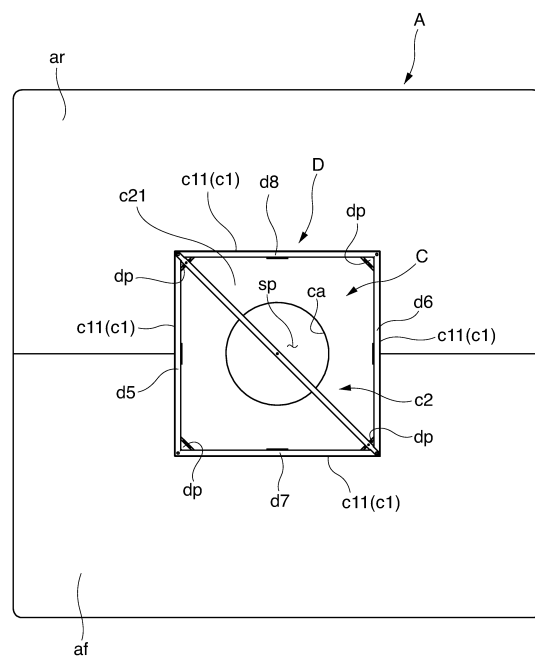
【図 4】



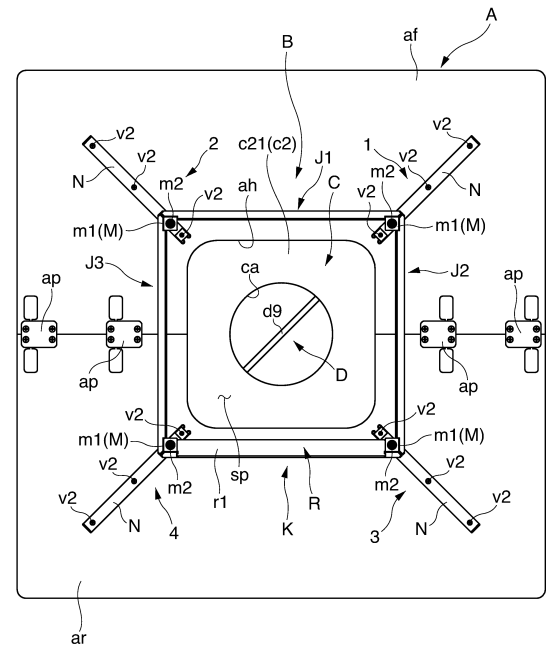
【圖 5】



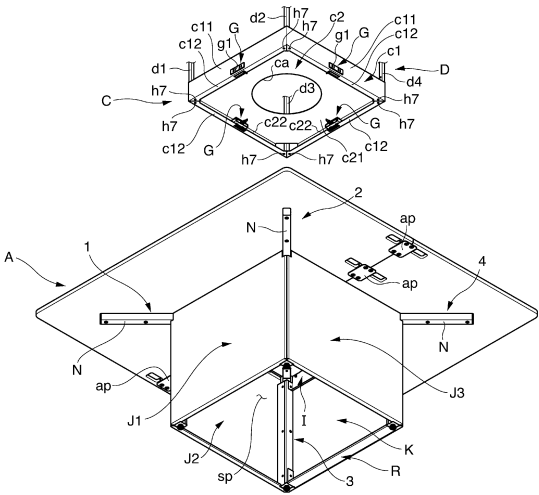
【図 6】



【図 7】



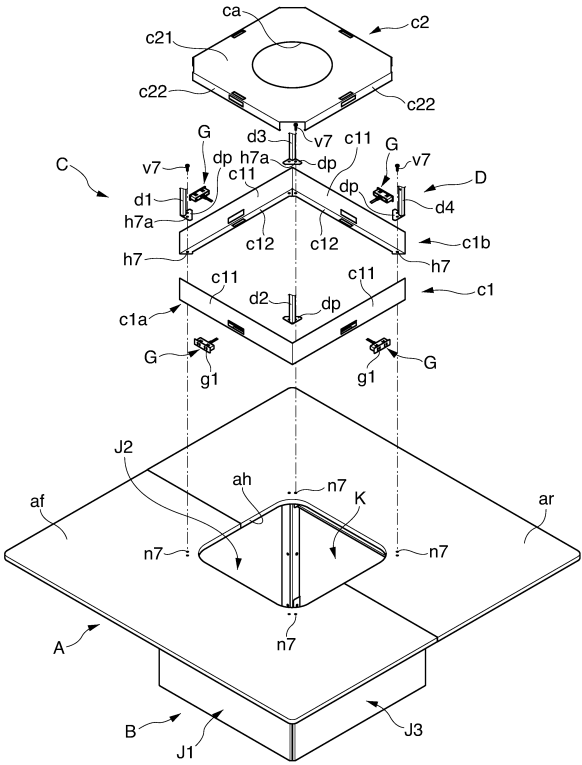
【図 8】



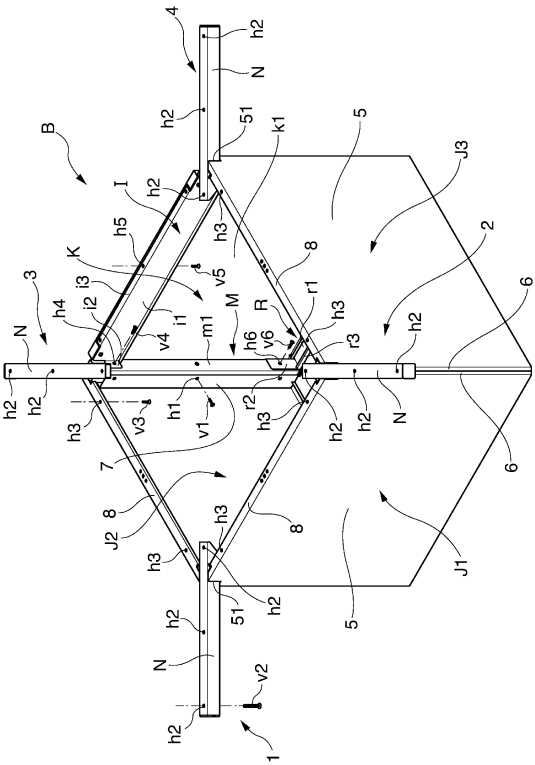
10

20

【図 9】



【図 10】

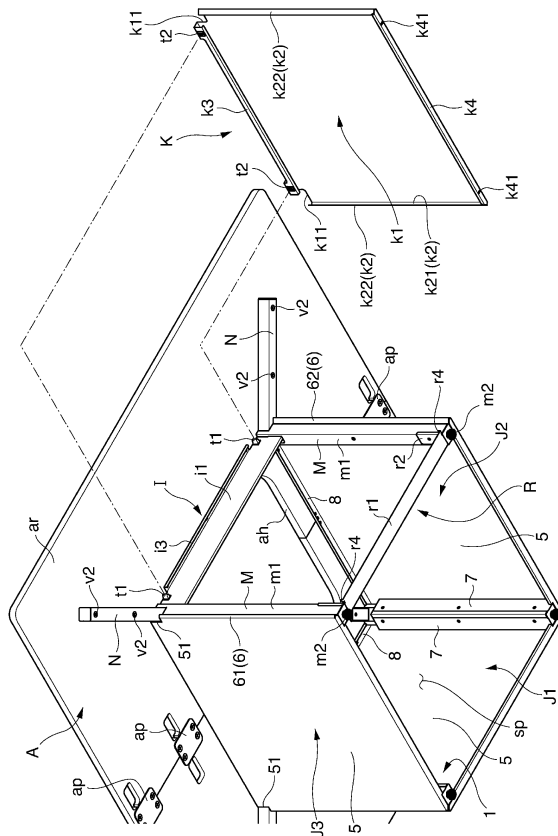


30

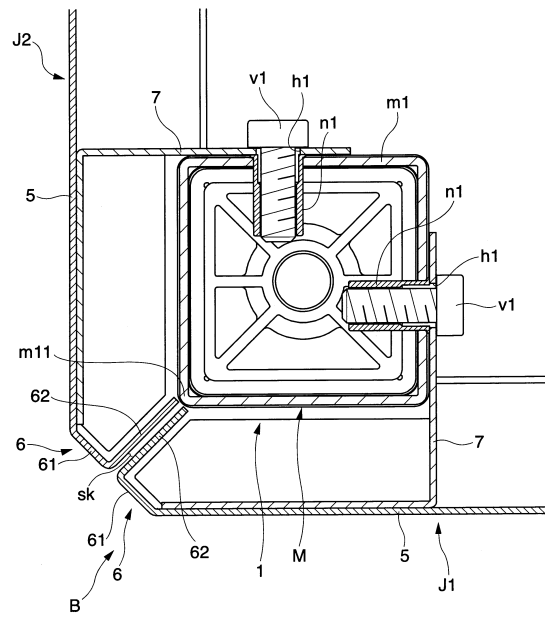
40

50

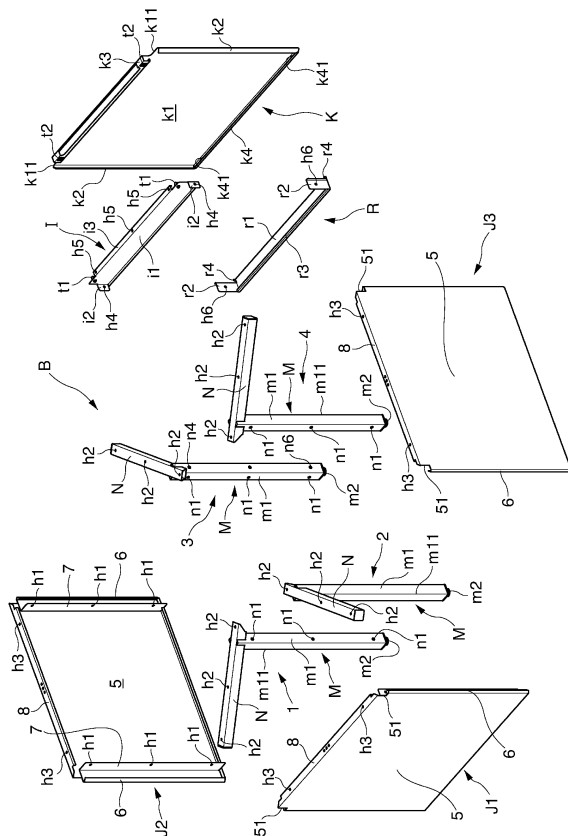
【図 1 1】



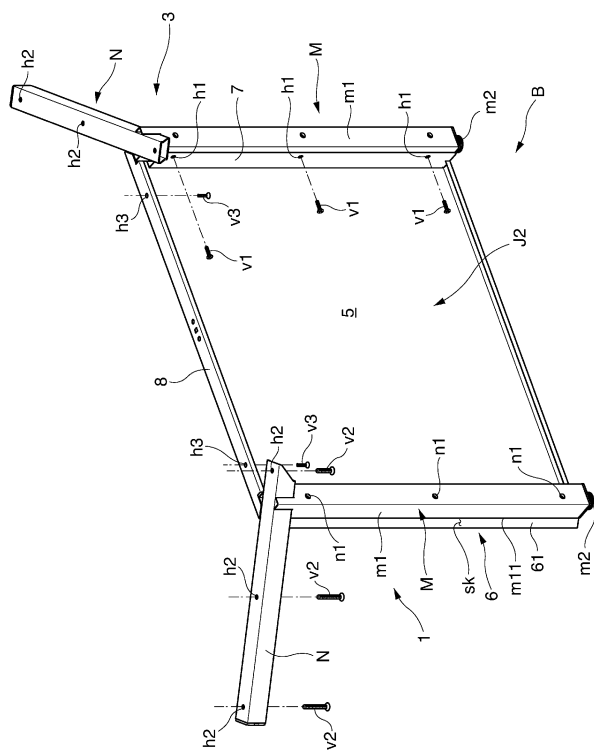
【図 12】



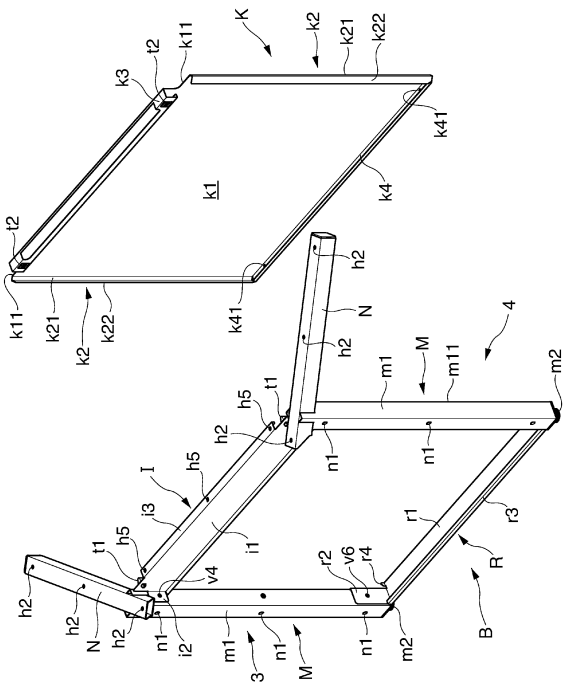
【図 13】



【図 14】



【図 15】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

- (56)参考文献 独国実用新案第29612845 (DE, U1)
特開2002-136347 (JP, A)
特開2019-072374 (JP, A)
米国特許出願公開第2016/0345723 (US, A1)
実開昭63-118848 (JP, U)
欧州特許出願公開第00642751 (EP, A1)
実開昭57-012039 (JP, U)
特開昭52-009559 (JP, A)
- (58)調査した分野 (Int.Cl., DB名)
A47B 7/00
A47B 13/00
A47B 13/02
A47B 91/00